

日本学術会議公開シンポジウム

福島原発事故による 放射能汚染と森林・木材

開催日時:平成24年11月7日(水) 13時~17時

開催場所:日本学術会議 講堂(東京都港区六本木7-22-34)

主催:日本学術会議 農学委員会林学分科会、森林・木材・環境アカデミー

参加費:無料(事前申込不要)

講演

福島県の森林放射性セシウム汚染の実態と長期モニタリング

高橋 正通(森林総合研究所研究コーディネータ)

森林および土壌の放射能汚染と移行の実態

恩田 裕一(筑波大学教授、日本学術会議特任連携会員)

チェルノブイリに学ぶ長期生態系影響

吉田 聡(放射線医学総合研究所 福島復興支援本部 環境動態・影響プロジェクトリーダー)

木材への放射線セシウム移行と安全な木製品使用

外崎 真理雄(森林総合研究所四国支所長)

森林の除染と林業活動

中村 道人(林野庁技術開発推進室長)

今後の森林管理と林業の課題

丹下 健(東京大学教授、日本学術会議連携会員)

パネルディスカッション

コーディネータ

川井 秀一(京都大学教授、日本学術会議会員)

アクセス

東京メトロ千代田線
「乃木坂」駅5出口

問い合わせ先

川井 秀一(日本学術会議会員) TEL 0774-38-3677 E-mail skawai@rish.kyoto-u.ac.jp

白石 則彦(森林・木材・環境アカデミー) TEL 03-5841-5211 E-mail siraiishi@fr.a.u-tokyo.ac.jp

福島原発事故による 放射能汚染と森林・木材

主催：日本学術会議 農学委員会林学分科会、森林・木材・環境アカデミー

後援：日本農学アカデミー、(社)日本森林学会、(社)日本木材学会、(財)林学会

東京電力福島第1原子力発電所の事故から放出された放射性物質は、福島から北関東の山間部に広く拡散し、地域の森林、林業、木材関連産業に大きな影響を及ぼしている。事故から一年半が経過し、大学や研究機関により森林生態系や木材、林産物への影響の調査が進み、実態が把握されつつあり、同時に生活圏への除染等の対応が進められている。

一方、放射性セシウム137の半減期は30年と長いため、長期的な取り組みの検討が必要である。とくに森林は広大な面積を占め、その除染には莫大な経費がかかるので、生活圏の除染に比べて優先順位が低い。今後流域を含め長期的な対策が必要となる。本シンポジウムは緊急に求められる対策やその長期展望について最近の科学的知見をもとに、多角的な視点から議論する。

■ 開会挨拶 13:00

■ 講演 13:10～

福島県の森林放射性セシウム汚染の実態と長期モニタリング

高橋 正通（森林総合研究所研究コーディネータ）

森林および土壌の放射能汚染と移行の実態

恩田 裕一（筑波大学教授、日本学術会議特任連携会員）

チェルノブイリに学ぶ長期生態系影響

吉田 聡（放射線医学総合研究所 福島復興支援本部 環境動態・影響プロジェクトリーダー）

木材への放射線セシウム移行と安全な木製品使用

外崎 真理雄（森林総合研究所四国支所長）

森林の除染と林業活動

中村 道人（林野庁技術開発推進室長）

今後の森林管理と林業の課題

丹下 健（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

■ パネルディスカッション 16:00～

コーディネータ

川井秀一（京都大学教授、日本学術会議会員）

■ 閉会挨拶 16:50